

る。名脚本家である。脚本家もベテランの脚本家になればなるほど嫌われる。文句はいろいろ、書くのは遅いし、ギャラは高い。これは脚本家の世界だけのことでない。

テレビドラマ「相棒」の脚本家と一緒したことがある。津

スタッフも出席なさっていた。わたしはスタッフに杉下右京の行きつけの居酒屋「花の里」のカウンターの花瓶が、いつも変わっているのが面白いと褒めた。スタッフの人は「そこまで見ていてくれる人がいて嬉しい。あれには凝ってるんです」と喜んで

掛けていたので評判は悪かった。監督は人柄の悪いのが多いが、脚本家は人柄がいい。いろいろな人の意見を取り入れつつ、自己主張をした本を書く。その脚本がボツになっても、決してめげない。いや、めげたそぶりを人には見せない。タフで

る。映画化には大金がかかる。ああでもないこうでもないやっているうちに、その企画そのものに飽きがくる。映画が撮れたとしても上映できずにお蔵入りする場合もある。やはり、タフでなくては生きていけないのである。

脚本家タフさが必要

川雅彦さんの会「深美会」であった。

「相棒」の脚本家はまだ若い。

なければ脚本家にはなれないのである。といって、「相棒」の

「相棒」のシナリオは一本だけ書きたい。杉下右京に恨みのある犯罪者が、右京にそっくりの整形をして罪を犯す。指紋

に埋れていくが、老婦人はすでに亡くなっていた。知覧はねぶた祭りの最中であつた」といった内容である。これならば映画にできると考えている。うまくいけば、である。

先生を講師にして会をつくっている。テーマは主に日本の歴史の裏側である。「坂本龍馬を殺したの中岡慎太郎だったのか」といったテーマである。そ

頃、わたしもよくホテルに缶詰になった。ただし、わたしの場握りの人しか知らない。「知覧にて」の脚本ならば書

語で子守歌を聞かされていたと聞いた粗筋であるが、どうだろうか。(松浦市出身)

わたしは三十数本の脚本をボツにされた脚本家を知って

て、お茶の水や新宿に飲みに出

ける。ただ、脚本を書いて

うか。